同窓会だより

法曹界で活躍
新進気鋭真和OB裁判官
裁判官のある一日

鹿児島地方裁判所　加治木支部
支部長　杉原　崇夫（24期）

三月の晴れた日、いつもどおり九時半過ぎに登庁すると、すでに机の上は破産、競売、刑事、家事（少年、離婚、遺産分割）などの記録の山。職員二八人、裁判官一人だけの小さな支部。大規模庁では分業化されているが、ここではすべての事件を担当し、支部長として人事、会計等の決済も行う。何でも屋に近い、まさにバタバタした忙しさだ。

午前は少年の恐喝事件。何度やっても少年審判は苦手だ。無力感ならまだいい。純粋な少年の心の闇を前にすると、ときに鏡をみているような、逆に自分自身の人格が試されているような感覚に襲われる。周りとの悪い関係を絶ち、雑音のないところで自分と向き合って欲しいと考え、重い少年院送致の処分を決めた。部屋に戻ると、机上には逮捕状の請求書。逮捕や家宅捜索には裁判官の許可が必要で、その請求は時間を選ばずに来る。深夜に起こされることも少なくない。教師が児童に体罰を加えたという傷害事件。母親から激しく突き上げられた警察は速やかな許可を求めたが、傷害の程度は軽く、むしろ児童に原因があり常習的でもない。逮捕が教師に及ぼす影響の大きさを考え、許可しないことを伝えた。すぐに破産の記録を読み始めたが、相変わらずの多さだ。無職の者にすら次々と貸すサラ金、無軌道な消費やギャンブル、当初はモラルハザードたろうとした裁判官も、増加があまりに急激なため、その責任を果たせないでいる。途中で切り上げ、短い昼休みをとった。

午後は損害賠償事件の証人尋問。バイクで暴走して右折中のバスに突っ込んだ事故。一人息子を失くした両親の姿は痛々しかったが、少年の過失は重く、厳しい判決が予想したが、離婚事件のことが頭から離れないでいた。来週には親権を決めなければならず、それは子供の人生そのものを決めると言っても過言ではない。一人っ子が増加したせいで、離婚時の子供の奪い合いがより深刻だ。母親の愛情は深いが経済力はなく、他に支えてくれそうな人もいない。父親に経済力はあるが、何事も祖父母任せで無責任である。その祖父母は母親の下から子供を無理に奪い去っており、それを見過ず訳にもいかないだろう。夕方に尋問を終え、机の記録がなくなるころには七時をまわっていた。それから軽食をとり、期日が迫っている判決書の起案にとりかかった。

裁判所は、抽象的に言えば、権利が侵害されている人を救済する最後の砦である。裁判官は、その判断を示すことで、社会秩序を維持し、健全な社会の営みを一番底のところで支えるようなものだろうか。格好良く言うなら人や社会の病巣を治療する医者のようであり、不謹慎かもしれないがごみ処理、清掃業者のようでもある。人が健康で社会も健全であれば、裁判官は暇だし、裁判所と関わらずに過ごせるのがより良い人生であることは間違いない。

恥ずかしながら明確な理由があって裁判官を目指した訳ではない。医者になるのが怖くて断念し、そのまま受験できる法学部に入ったが、四年になって就職するのが嫌で友人に誘われて司法試験の勉強を始めた。就職の機会を逃して後に引けなくなり、卒業二年目にやっと合格した。二年間の司法修習の間、検事になりたかったが体育会系的なところがなじめず、弁護士という気にもならなかったので裁判官になった。私はとくに主義主張を持たず、優柔不断で周りに流されやすい。それらは裁判官の資質とは反するが、反面、何事も決めつけず先入観や偏見を持たない、柔らかな思考を持っているということでもあり、それもまた裁判官に必要な資質だと思う。目標を持って頑張れる人はすでに強く、このような私だからこの仕事を目指す皆さんへの適切な言葉は持っていない。皆さんにはまずは楽しい思い出をたくさん作って欲しい。私自身、真和で過ごした思い出は尽きない。自宅への帰途、上熊本駅を過ぎて車窓の風景を眺めていると、ふいに高校二年のときに中島先生の自宅に遊びに行ったことを思い出し、自然に笑みがこぼれ、癒されている。そういうさいなことで実は救われているのかもしれない。そして、忘れて欲しくないのは、自分の進路や可能性を縛り過ぎないこと、人間に対する興味を常に持ち続けるということぐらいだろうか。それが人の人生を扱う裁判官の原点のように思う。

裁判官のつらいところは、日々「判断」という神経をすり減らすようなストレスに晒されることである。また、事件数の増加に伴い、ほとんどの裁判官は厳しい勤務を強いられている。収入は弁護士である妻にはるかに及ばない。弁護士の友人からはそんな給料でよく働いているなと言われ、妻からは他人のことをまあよく決められるものだと言われるが、裏を返せば、それがやりがいでもある。自らの判断によって権利が守られ、紛争が解決し、人が再び笑顔を取り戻す。まじめに生きている人が損をするような社会であってはならない。そういう社会を支えているんだという漠然とした思いがある。その緊張感、充実感は大きく、そのような責任ある仕事を担っているという誇りが裁判官を支えている。人が自分を縛っている何かから解き放たれたときに見せる笑顔は本当に素晴らしい（「家裁の人」より）。それを実感するときが、この仕事を選んで良かったと思える瞬間である。

最後になりますが、本稿により皆さんが少しでもこの仕事に興味を持ち、法曹界、その中でも裁判官を目指すきっかけになってくれれば、とてもうれしく思います。このような機会を与えて下さった先生方に感謝致します。また、近い将来、抽選により選ばれた一般国民（裁判員）が、裁判官とともに重大な刑事事件を審理する制度が始まり、場合によっては死刑の評決をする責任を負うことになります。皆さんの誰もが等しくそういう立場に立たされるのです。もし選ばれた場合、決して楽ではないと思いますが、責任をよく果たされるよう望んでいます。

略　歴
杉原　崇夫（すぎはら　たかお）

1970年	12月24日　天草郡御所浦町生まれ
1983年	4月　真和中学入学
1989年	3月　真和高校卒業
1989年	4月　九州大学法学部入学
1993年	3月　九州大学法学部卒業
1995年	司法試験合格。翌年司法修習生となる。
1998年	福岡地方裁判所第一刑事部任官

真和一期生医療功労賞受賞

篠原誠さん（1期）

第三十三回医療功労賞（読売新聞社主催・厚生労働省など後援）に熊本県内から、あさぎり町の犬童内科胃腸科医院理事長・犬童秀夫さんと芦北町の芦北学園発達医療センター施設長・篠原誠さん（真和高校一期生）が選ばれた。篠原さんは真和高校一期生で、久留米大学医学部を卒業後、第一外科に入局。消化器外科専門だったため施設長就任に際しては「障害医療の特殊性や多様性に正直戸惑った」と振り返る。

七五年九月、父親の幹（みきお）さんの急逝に伴い、二十七歳の若さで施設長に就任した。それ以来、約三十年、当時百六十人だった重症心身障害児（者）の定員を二百人まで増やし、県内全域の心身障害児（者）医療に貢献している。特に力を入れているのが、一人では呼吸や排せつなどができず、意思の疎通も難しい「超重症児（者）」と呼ばれる人たちの医療介護。二十四時間態勢の専用病室を設置し、看護師らが付きっきりで約三十人の世話をしている。

もともと開業医だった父親の姿を見て育ち、最近は父親が生まれ育った中国の福祉や医療・漢方にも関心を持ち、研究を始めている。

（平成17年2月2日　読売新聞より記載）

自分の価値は自分で高める

真和中学・高等学校育友会会長　本田　光曠

今、アメリカ大リーグで大活躍していますイチロー選手は天才と言われていますが、彼は自分が持って生まれた才能をどうしたら最大限に発揮できるかをよく考えています。また、選手として記録に優れているだけでなく、数々の名言を残しています。

例えば、大リーグに入団した時に「自信はありますか」と聞かれて、「自信がなければこの場にいない。自分が一番期待している」と言いました。

MVPに選ばれたときには「他人との比較ではなく、自分の力を出せたことに満足している」と発言しました。この「他人との比較ではなく、自分の力を出せたことに満足している」という言葉を皆さん、よく覚えておいて下さい。

自分の限界に挑戦しなければ、必ず後悔することになります。勿論、野球の世界だけではありません。皆さんの挑戦を待っているフィールドは至るところに広がっています。常にチャレンジ精神をもって自分の人生を開拓していって下さい。

そして、「自分の価値は自分で高める」という強い意志と燃えるような意欲が学生生活には必要です。

更に、「夢は一人で抱いているときは、果てしない夢で終わるが、同じ夢を抱いた友と共に夢を抱くとき、その夢は現実のものとなり、更に、その頂点が高まれば全体が高まる」と言われています。

皆さんが、この学校で今、一緒に学んでいる仲間と共に逞しく成長することを私たち保護者は期待しています。

最後に、人生の目標は、あなたに出合えて良かったといわれる自分作りにあります。一人でも多くの人から「あなたに合えて良かった」と言われるように、これからも努力して行って下さい。

クラブ・同好会紹介

【文化部】
宗教（飛永）　文芸（衞藤）
写真（宮本修）
コーラス（元田・菅提）
オーケストラ（長坂）
演劇（衞藤）
囲碁将棋同好会（國友・高洲）
生物同好会（野口・歌岡）
ESS同好会（北野）
リコーダー同好会（宮本修）
イラスト同好会（長尾）

【体育部】
軟式野球（國武・竹本・中村彦）
空手（西村・徳永）
剣道（松木）
サッカー（高（藤崎・川野・本田紘）
ハンド（高・中）（大村・長坂）
女子新体操（酒井）
弓道（緒方・元田）
バスケット（高（長尾・福岡）
バスケット（中（高洲・足立）
テニス（横井・河原）
バドミントン（田嶋・宮崎）
陸上（松村・和田）
卓球（中島・赤司・影山）

▲コーラス部
県合唱コンクール銀賞

◀学園吹奏楽部

▶サッカー部

▲卓球部
県高校総体ベスト8

▲ハンドボール部（女子）
県高校総体3位

▲テニス部
県高校総体ダブルスベスト16位
市中体連団体（男子）準優勝
市中体連団体（女子）3位

▲剣道部

平成十七年度　生徒会役員名

◎**生徒会長**
堀田　英伸（Ⅱ－4）
◎**副会長**
高原　遼（Ⅱ－4）
◎**代議員**（5人）
瀬尾　薫（Ⅱ－1）
藤島かおり（Ⅱ－1）
大内　傑（Ⅱ－1）
山下真里奈（Ⅱ－5）
大山美華子（Ⅱ－4）

ホームページ

真和中学・高等学校
http://www.shinwa.ed.jp

真和同窓会（杏葉会）
http://www.shinwa-dosokai.com

同窓会お知らせ

平成17年度真和中・高等学校
45周年記念大同窓会（杏葉会）
記念講演会・総会・懇親会開催。

日時：平成17年6月11日（土）17時30分～
場所：熊本ホテルキャッスルにて